



没後20年 弦巻松蔭展



弦巻松蔭は、1906年、北蒲原郡葛塚町大字葛塚(現新潟市北区葛塚)に生まれ、5歳頃から父耕治の手ほどきで習字を始めました。書家として生きる決意を固めた松蔭は、1936年、書芸術論を説く上田桑鳩に学ぶため単身上京し、9年間修業を重ねます。戦後は、郷里で精力的に創作活動を展開しつつ、私塾や高校での指導を通して、書の普及に努めました。

当館では、豊栄市博物館時代に寄贈を受けた松蔭作品の常設展示を1998年から2014年まで継続してきました。本年は、松蔭の没後20年にあたり、その生と書業を回顧する企画展を、2期にわたり開催しました。

I 模索と創作の軌跡

1期展は、「書家 弦巻松蔭」をテーマとし、修業時代から晩年までの作品21点と、師桑鳩の作品9点を展示することで、書家松蔭の道程を回顧するものとした。松蔭は在京中に桑鳩の下で徹底的に臨書に取り組み、全国展へ出品を重ねます。

戦後、桑鳩の同志や門下の多くが前衛書に取り組む

ようになり、松蔭はそれらの動向を目の当たりにしますが、漢字による表現に主眼を置き、文字とその意味内容が一体化した書きぶりを追求していきます。それは、師の思想に傾倒しつつも最新の表現志向にとらわれず、ひたすら自己の書を模索する、真摯な闘いの道でした。



展示会場



(上田桑鳩コーナー)

II 松蔭とふるさと・新潟一師弟のすがた

2期展は、「師 弦巻松蔭」「ふるさと新潟における松蔭」をテーマとしました。松蔭は、師桑鳩の「自由な創造」という芸術の精神が郷里に根付くことを願い、教え子たちに技術を指導する以上に、創造の意味、そしてその厳しさと喜びを教えようとしたのです。

展示会では、松蔭作品11点と師桑鳩の作品1点、松蔭の教え子13人の作品22点を三部構成で展示し、

松蔭が新潟にもたらしたのを見つめるとともに、松蔭の芸術観をも浮き彫りにしようと試みました。

展示会出品作家

弦巻松蔭、上田桑鳩、
(教え子/五十音順)伊集院草香、今井寸松、小黒五稜、小谷帯雨、川口夢墨、小池松雨、佐藤奎玉、眞田景風、菅井慶城、弦巻紅雨、永井素香、増田紅楓、宮田玲花



展示会場



1 企画展

(1) 没後20年弦巻松蔭展I —模索と創作の軌跡—

6/6~7/5

弦巻松蔭(1906-1995)の没後20年にあたって開催した第1期回顧展。松蔭の書に多大な影響を与えた師上田桑鳩の作品も併せて展示し、桑鳩に学んだ修業時代から、自身の書の確立を目指した書家への創作の軌跡を展観。

入館者 803人

○講演会「弦巻松蔭一人と書一」

講師：野中吟雪氏(新潟大学名誉教授・岐阜女子大学大学院教授・書家)

6/21 参加者 49人

○展示鑑賞ガイド

講師：伊豆名皓美(当館嘱託職員(書))

6/28 参加者 14人

神田直子(当館学芸員)

7/5 参加者 24人

(2) 第32回菱湖会書展 7/10~7/20

共催事業(主催：菱湖会・新潟市北区郷土博物館)新潟市北区在住の書家 小黒五稜氏主宰の書道グループ展。会員21人の作品33点を発表。

入館者 511人

(3) 第18回松蔭賞書道展 8/1~8/30

対象：新潟市内の小学3年生~中学生

郷土出身の書家弦巻松蔭にちなんで開催。書に親しむ機会づくりの一環として市内の児童・生徒から課題作品を公募して開催した。入賞作品238点を展示。

入館者 1,039人

○参加校

- ・北区内 … 小学校13校 ・中学校7校
- ・新潟市の北区外 … 小学校1校 ・中学校4校
- ・書道教室 … 6校
- ・その他 … 個人出品

○出品点数(点)

小3	448	中1	348
小4	494	中2	218
小5	482	中3	113
小6	469	教室・個人	107
合計	2,679		

- 入賞者数 ・松蔭賞 7人(各学年1人)
- 238名 ・優秀賞 21人(各学年3人)
- ・特選 70人(各学年10人)
- ・佳作 140人(各学年20人)



弦巻松蔭展I 講演会(講師：野中吟雪氏)ホール(展示会場)にて



弦巻松蔭展I 展示鑑賞ガイド(7/5)



第32回菱湖会書展



松蔭賞書道展 表彰式 館長挨拶